

聖徳大学

目 次

I 選択的評価事項に係る評価結果	2-(4)-3
II 選択的評価事項の評価	2-(4)-4
選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	2-(4)-4
<参 考>	2-(4)-11
i 現況及び特徴（対象大学から提出された自己評価書から転載）	2-(4)-13
ii 目的（対象大学から提出された自己評価書から転載）	2-(4)-14
iii 選択的評価事項に係る目的（対象大学から提出された自己評価書から転載）	2-(4)-15
iv 自己評価の概要（対象大学から提出された自己評価書から転載）	2-(4)-16
v 自己評価書等	2-(4)-17

I 選択的評価事項に係る評価結果

聖徳大学は、「選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」において、目的の達成状況が良好である。

当該選択的評価事項Bにおける主な優れた点として、次のことが挙げられる。

- SOA (Seitoku Open Academy) を中心として多種多様な大学開放事業を広汎に展開し、多くの参加者を得ている。
- 研究所や音楽学部を有していることから、その教育研究実績を活かした多彩な社会貢献を行っている。

II 選択的評価事項の評価

選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

B-1 大学の目的に照らして、正規課程の学生以外に対する教育サービスが適切に行われ、成果を上げていること。

【評価結果】

目的の達成状況が良好である。

(評価結果の根拠・理由)

B-1-① 大学の教育サービスの目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が周知されているか。

聖徳大学オープン・アカデミー（SOA）が中心となって、「社会人の教養を高め、文化の向上に資するため」に、各種の教育サービス事業を展開している。企画・立案・運営に当たっては生涯学習委員会等の教職員を主要な構成員とする委員会が組織的に監理し、また、運営の際には生涯学習課等が支援体制をとっている。詳細をウェブサイトで案内しているほか、パンフレットを関係機関を通して配布するなどの広報活動を展開している。

・SOA公開講座

SOA公開講座の実施については、毎年、年度当初の生涯学習委員会において講座や担当講師、日程等を内容とする計画案を決定し、公表している。平成22年度においては、第I期（春期：4～7月）、第II期（秋期：9～12月）、第III期（冬期：1～3月）を通して、前年度（平成21年度）の実績を踏まえて、講座数595（企画講座526、1Day講座69）、受講者数7,300人（企画講座6,600人、1Day講座700人）を見込んでいた。なお、受講生の確保に当たっては、前年（平成21年）度の満足度調査を踏まえ、SOA会員（会員は優先継続申込制を適用）への案内書送付、近隣地域への新聞折込広告、近隣施設へのチラシ広告の配布、地域紙への掲載、ウェブサイトへの掲出等の広報活動を展開することとしている。

また、クリナップ株式会社より寄付講座の申し出があり、平成21年度に引き続き、平成22年度もクリナップ寄付講座「キッチンから笑顔をつくる料理アカデミー」を年間6回開講することとしている。また、継続的に開講している資産運用に関する講座について、住友信託銀行柏店より店舗内での講座を要請され、平成22年度内に2回、学外講座を実施する計画を立てている。

・SOAオープニングセレモニー

生涯学習委員会がプログラムや講師等の内容を企画し、SOA公開講座の新年度の講座開講期（4月の第3土曜日の午後）に、SOA会員のほか、一般社会人をも対象に開催することとしている。平成22年度には、公開講演会とコンサート（パイプオルガン演奏）を主要な内容として開催を予定し、一般来場者（354人）のほか、422人の招待を計画している。

・教員免許更新講習

教員養成課程を有する大学として、現職教員の教員免許の更新に資するため、文部科学省の要請により教員免許更新講習を開設し、制度が制定された平成21年度の前年の試行講習より参画している。教員免許更新講習委員会が、講習に関する企画、運営について審議し、実施に当たっている。同委員会では、同制度の見通しが必ずしも安定的とは言えない状況の下で、平成21年度は1,000人の受講者を見込み、受講対象校への受講案内の送付、千葉県教育委員会経由での県内対象校への受講案内配布、ウェブサイトへの掲

載等の広報活動を展開したが、実績はその約9割に止まった。しかしながら、平成22年度は同制度の継続が明確になってきたことを踏まえ、1,320人の受講者を見込むこととしている。

・夏期保育大学

昭和43年に始まり、平成23年度で第43回を迎える。児童学部の教員を中心とした委員会を設置し、講義内容、講師、日程等の企画、立案、さらに実施体制等について審議している。テーマを定め、講演会と分科会形式で、毎年度、7月下旬の土曜日に開催している。年度ごとに受講者数目標を定めて実施している。関東を中心とした地域への幼稚園、保育所へのハガキ、リーフレット送付、学内ニュースへの掲載、ウェブサイトへの掲出等の広報活動を展開している。平成20年度は620人の受講者を見込んだが、約9割の実績に止まったため、平成21年度は600人としたところ、1割以上のプラス実績が得られ、また満足度調査では8割を超える肯定的評価(81.7%)を得ていたため、平成22年度は750人の見込みを立てている。

・免許法認定公開講座

教員養成課程を有する大学として、現職教員の免許状上進、隣接校種免許状、栄養教諭免許状、特別支援学校教諭の免許状取得の支援として、文部科学省への申請、認定を得て免許法認定公開講座を開設している。生涯学習課が、講座に関する企画、運営を行っている。関東を中心とした地域の幼稚園、小学校へリーフレット送付、学内ニュースへの掲載、ウェブサイトへの掲出等の広報活動を展開している。なお、年度ごとに受講者数目標を定めているが、平成20年度は1,620人の受講者を見込んだものの7割強、平成21年度は1,223人に対して8割弱の実績であったため、平成22年度は1,000人の受講者数見込みを立てている。

・司書・司書補講習

司書・司書補講習は、文部科学大臣の委嘱を受け、図書館法に基づき開講している。司書科目担当教員による委員会を設け、司書講習、司書補講習の企画、立案、実施について検討している。文部科学省への申請、委嘱を経て、司書講習は7月下旬より約2か月間、司書補講習は、8月上旬より約1か月間開講している。関東を中心とした地域の図書館へ受講案内及びポスターの送付、ウェブサイトへの掲出等の広報活動を展開し、受講生を確保している。また、当講習は厚生労働大臣指定教育訓練講座ともなっており、資格を満たすことにより受講料の一部が補助される。募集定員は、司書講習100人、司書補講習50人で、例年定員をほぼ満たしていることから、平成22年度においても同様の計画を策定している。

・介護技術講習

介護技術講習は、介護福祉士国家試験を受検する際、この講習の受講修了により実地試験が免除となる。担当教員による委員会を設け、計画を策定、日本介護福祉士養成施設協会への申請、指定を経て例年6月、7月の2回実施している。日本介護福祉士養成施設協会からは各施設へ講習会開設機関の一覧が発送され、周知が図られている。平成22年度の募集定員は、2回で合計80人である。

・研究センター・研究所等の開放事業

SOA音楽研究センターでは、平成22年度、地域の市民のために、音楽学部の施設設備を利用し、声楽や器楽の個人レッスンの実施(登録可能数:237人)を計画、また各種の公開講座の開催を予定し、平成22年度はダルクローズリトミック講座(1回20人、2クラスで年間10回実施、延べ400人)、バロックダンス講座(1回10人、延べ8クラスで、800人)、音楽療法講座(1回20人で、全5回、延べ100人)を計画している。さらに、教員を指導者として全国警察音楽隊研修会(警察庁委嘱、研修生62人)を計画している。12月恒例の聖徳学園「第九の夕べ」を音楽学部教授の指揮で計画、1,300人の聴衆を見込んでいる。また、児童学研究所・言語文化研究所・生涯学習研究所の3附置研究所並びに心理教育相談所では、教育研究の高度化とともに、社会貢献を活動重点目標に掲げ、知財戦略課をコーディネーターとして、大

学が有する知的財産、研究ネットワークを活用し、学内外の研究者による研究成果を、各種の講演会等を通して広く社会・地域に還元する取組を行っている。なお、これらの事業は、松戸市・市川市・柏市・取手市の各教育委員会の後援を受けて実施することで、行政と連携しながら生涯教育社会の進展に寄与することも視野に入れている。

これらのことから、計画や具体的方針が定められており、周知されていると判断する。

B-1-② 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

いずれの事業も、計画どおりに実施されている。

・SOA公開講座

平成22年度のSOA公開講座は、計画の通り、第Ⅰ期（春期：4～7月）、第Ⅱ期（秋期：9～12月）、第Ⅲ期（冬期：1～3月）と年3期制によって開講している。開講講座数は、これも計画の通り、年間で、講座数595（企画講座526、1Day講座69）であった。また、これも予定の通り、クリナップ寄付講座「キッチンから笑顔をつくる料理アカデミー」を年間6回、さらに住友信託銀行柏店内で、平成22年の9月と10月の2回、資産運用に関する学外講座を開講している。

・SOAオープニングセレモニー

平成22年度におけるSOAオープニングセレモニーは、計画の通り、川並香順記念講堂での講演とコンサート（音楽学部教授によるパイプオルガン演奏）を主要な内容として、平成22年4月17日（土）の午後に開催している。

・教員免許更新講習

平成22年度の教員免許更新講習は、6月期を5月30日より6月27日までの毎日曜日に14講座を、8月期に8月17日より同21日までの5日間に17講座を、それぞれ計画の通り開催している。また、通信教育では、8月1日と同22日に試験を行っている。

・夏期保育大学

平成22年度のSEITOKU夏期保育大学は、計画通りの日程と講義内容で、7月24日に開催している。

・免許法認定公開講座

平成22年度の免許法認定公開講座は、計画の通り、7月26日から8月28日まで、11期（1期3日間）で開催している。開講科目数は、これも計画の通り、各期26科目であった。

・司書・司書補講習

平成22年度の司書・司書補講習は、司書講習が7月26日より同年9月18日まで計画の通り開催している。また、司書補講習も8月6日より9月11日まで、計画の通り開催している。

・介護技術講習

平成22年度の聖徳介護技術講習会は、第1回が6月6日から27日までの毎日曜日に、第2回が7月4日から25日までの毎日曜日に、それぞれ計画の通り開催している。

・研究センター・研究所等の開放事業

SOA音楽研究センターの教育公開活動も計画の通り実施している。ただし、例年年度末の修了時に実施されているレッスンの発表会は東日本大震災のため、平成22年度は中止された。全国警察音楽隊研修会は、平成22年8月24日から27日に計画通り実施している。恒例の聖徳学園「第九の夕べ」（指揮：音楽学部教授、教員・学生多数参加）は計画のとおり、平成22年12月16日の夕刻に川並香順記念講堂で開催している。1,320人の聴衆が来校している。また、平成22年度の研究所等における大学公開事業は、開か

れた大学への多くの市民の期待にこたえることを目的として、すべて計画どおり実施している。具体的には、児童学研究所が2回の講演会とシンポジウム、言語文化研究所が2回の連続講演会、6回の公開研究発表会と日本語教育講座（文化庁委託事業3年連続採択）、生涯学習研究所が生涯学習フォーラム、心理教育相談所が講演会となっている。

これらのことから、計画に基づいた活動が適切に実施されていると判断する。

B-1-③ 活動の結果及び成果として、活動への参加者が十分に確保されているか。また、活動の実施担当者やサービス享受者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

いずれの事業もほぼ目標どおりの受講者を得ており、満足度調査もおおむね良好な結果を得ている。

・SOA公開講座

平成22年度までの毎年度において、受講者は、あらかじめ設定した受講者目標数を大幅に上回っている。会員数も増加し、これに応じて開講数は毎年度約50の規模で増加している。平成22年度は、595講座に7,684人が参加している。

また、毎期、受講者に満足度調査を実施し、併せて要望の把握に努めている。平成22年度の満足度調査（第Ⅱ期までの集計分で回収数3,062、回収率58.51%）では、「満足」が70.9%、「やや満足」が19.9%と、2期分の集計ではあるものの、「満足」及び「やや満足」両者の合計で、前年度をやや上回る満足度評価となっている。

・SOAオープニングセレモニー

SOAオープニングセレモニーは、ここ数年、来場者の増加傾向が顕著である。平成22年度の来場者は、対前年度比で80%近い増加となった。平成23年度のセレモニー（4月16日開催）では、東日本大震災復興チャリティーコンサートを兼ねたこともあり、来場者は、招待者を合わせて約1,500人であった。なお、この会場では、被災者救援のための募金活動が行われている。

平成22年度オープニングセレモニーの満足度出口調査では、公開講演の「満足」が72%、「やや満足」が9.7%であった（無回答15.4%）。また、ミニコンサートの満足度は53.7%、「やや満足」が9.7%であった（無回答36%）。

・教員免許更新講習

教員免許更新講習の受講生数は、制度自体の安定化とともに、徐々に増加の傾向を示している。実施2年目の平成20年度には、文部科学省の「免許状更新プログラム開発委託授業」に採択されており、広域連携と通信教育の複合講座のシステム開発に取り組んでいる。

平成22年度の受講者は1,234人であった。文部科学省の様式による受講者評価により満足度調査を実施し、その様式に独自の自由記述欄を設け、受講生の要望把握に努めている。平成22年度の受講者評価の満足度調査では、必修領域が95.1%、選択領域が93.5%の肯定的評価を受けている。

・夏期保育大学

平成21年度に目標をかなり上回る受講者があったことにより、平成21年度においては目標をさらに高く設定し、講座の量や質を充実させた体制で臨んだが、結果は前年を下回り、577人であった。

毎年度、受講者に満足度調査を実施し、要望の把握に努めている。満足度調査では、平成21年度は81.7%、平成22年度81.5%と8割を超える肯定的な満足度を得ている。

・免許法認定公開講座

毎年、夏期、冬期、春期の3回、現職教員の休暇期間に実施しているが、ここ数年の実績は、目標数の下方修正にもかかわらず、見込みを下回るものとなっており、平成22年度は882人であった。

毎回、受講者に満足度調査を実施しているが、平成22年度については、受講者数が低下するなかで、「満足」が65.1%、「やや満足」が18.3%となっており、前年度の「満足」59.0%、「やや満足」20.7%をやや上回る傾向を示している。

・司書・司書補講習

平成22年度においては、司書講習105人（定員100人）、司書補講習52人（定員50人）の受講者があった。なお、これは前年度の受講者実績を、司書講習で3人下回り、司書補講習で2人上回っている。

・介護技術講習

平成22年度においては、第1回（6月）に受講者37人（修了者34人）、第2回（7月）に受講者18人（修了者15人）であり、当該年度における受講者の合計は55人、修了者の合計は49人であった。

・研究センター・研究所等の開放事業

平成22年度に開催したSOA音楽研究センターのレッスン部門は登録予定者数（237人）をわずかに下回る218人の参加者があったが、リトミック講座（計画400人）は270人、バロックダンス講座（計画800人）は490人、音楽療法講座（計画100人）は61人であった。全国警察音楽隊研修会は、個人レッスン73.3%、合奏等指導方法81.7%の満足度を示した。「第九の夕べ」には見込みをやや上回る1,320人の聴衆が来校した。研究所等の講演会・シンポジウム・フォーラム等の参加者数は、児童学研究所主催の講演会が延べ214人（目標200人）、シンポジウム165人（目標150人）、言語文化研究所主催の連続講演会が延べ1,685人（目標1,500人）、公開研究発表会が延べ332人（目標180人）、生涯学習研究所のフォーラムが1,048人（目標1,000人）、心理教育相談所の講演会が229人（目標150人）であった。また、SOA音楽研究センターを除く研究所等で行った参加者の満足度調査によると、1件で52.5%であったほかは、すべての講演会・シンポジウム等で70.6～97.3%以上の肯定的な満足度を得ている。なお、満足に否定的な意見としては、「ボリュームが多すぎる」、あるいは「難しすぎる」等が挙げられている。

これらのことから、活動の結果及び成果として、活動への参加者が十分に確保されており、また、活動の成果が上がっていると判断する。

B-1-④ 改善のための取組が行われているか。

SOA公開講座では、每期実施している満足度調査結果を生涯学習委員会に諮り、希望講座の開設等、受講生の意見を講座の改善に反映させている。また、SOA協力者会議を年2回開催し、外部有識者に講座企画に対する意見を聴取し、講座運営に反映させている。平成22年度には、受講生の要望の高い語学、健康のジャンルに、新規に語学3講座、健康関連2講座を開講している。

SOAオープニングセレモニーでは、開催後のアンケートを生涯学習委員会に諮り、来訪者の意見を次年度の講師の選定及びコンサートの企画立案に参考としている。公開講演会は、希望の多かった講師に依頼している。

教員免許更新講習では、教員免許更新講習委員会が受講者評価書を検討し、受講者の要望を講習に反映させている。

夏期保育大学では、実施後のアンケート集計を委員会に諮り、受講生の意見を反映させている。

免許法認定公開講座では、実施後にアンケート結果を検討し、受講生の意見を反映させている。平成22年度の冬期講習において試験的に1つの講習を3日間かけて行っていたものを2日間に集約し、受講生の来訪日数の負担軽減を図ったところ好評であった。

司書・司書補講習では、平成23年度においては、前年度と同じ要項で受講者を募集することとしている。

介護技術講習では、実施後に担当教員及び主任指導者による反省会を行い、アンケート内容を検討し、受講生の意見を反映するように努めている。

各研究所等における講演会・シンポジウム等で実施した満足度調査の結果は、各研究所の運営委員会で検討し、次年度以降の企画に反映させるように努めている。平成21年度からは、研究所連絡会（各研究所長と知財戦略課で構成）を設け、研究所間で積極的な意見交換等を行うなど、連携強化を目指した取組を行い、適切に改善が図られている。

これらのことから、改善のための取組が行われていると判断する。

以上の内容を総合し、「目的の達成状況が良好である。」と判断する。

【優れた点】

- SOA (Seitoku Open Academy) を中心として多種多様な大学開放事業を広汎に展開し、多くの参加者を得ている。
- 研究所や音楽学部を有していることから、その教育研究実績を活かした多彩な社会貢献を行っている。

<参 考>

i 現況及び特徴（対象大学から提出された自己評価書から転載）

1 現況

(1) 大学名 聖徳大学

(2) 所在地 千葉県松戸市

(3) 学部等の構成

学部：児童学部、人文学部、人間栄養学部、音楽学部

研究科：児童学研究科（博士前・後期）、言語文化研究科（博士前・後期）、臨床心理学研究科（博士前・後期）、人間栄養学研究科（博士前・後期）、音楽文化研究科（博士前・後期）、教職研究科（専門職学位課程）

附置施設等：児童学研究所、言語文化研究所、生涯学習研究所、生涯学習社会貢献センター、保健センター、情報処理教育センター、AO入試研究センター、心理教育相談所、聖徳大学オープンアカデミー、聖徳大学オープンアカデミー音楽研究センター、川並記念図書館、聖徳博物館

関連施設：聖徳大学短期大学部、聖徳大学幼児教育専門学校、聖徳大学附属女子高等学校、聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校、聖徳大学附属女子中学校、聖徳大学附属取手聖徳女子中学校、聖徳大学附属小学校、聖徳大学附属幼稚園、聖徳大学附属第二幼稚園、聖徳大学附属第三幼稚園、聖徳大学附属浦安幼稚園

(4) 学生数及び教員数（平成23年5月1日現在）

学生数：学部 7,396 人（通信教育 3,686 人含む）、大学院 218 人（通信教育 87 人含む）

専任教員数：236 人（学長を含む）

助手数：36 人

2 特徴

現代の日本社会は少子高齢社会を迎え、大学への進学率は50%を大きく上回り、高等教育の「ユニバーサル時代」の到来とともに、多様な学生が多様な大学教育を受ける時代となった。本学園では、このような時代の変化に的確に対応するため、短期大学部、学部、大学院の教育組織を拡充してきた。大学院では発足時の児童学研究科、言語文化研究科に加えて、現在では臨床心理学研究科、人間栄養学研究科、音楽文化研究科、さらに教職研究科が開設され、しかも教職研究科（専門職学位課程）を除いてすべてに博士後期課程を備えた5研究科体

制に拡大している。学部は、かつての人文学部一学部を発展的に改組拡充し、現在では、児童学部児童学科、人文学部社会福祉学科・心理学科・生涯教育文化学科・女性キャリア学科・英米文化学科・日本文化学科、人間栄養学部人間栄養学科、音楽学部演奏学科・音楽総合学科の4学部10学科を擁している。短期大学部もまた保育科と総合文化学科として、教育環境や教育内容の整備充実を図っている。

沿革

川並香順・孝子夫妻が昭和8年東京の大森に聖徳家政学院・新井宿幼稚園を創立して以来、本学園は、一貫して幼児教育・女子教育に力を注いできた。幼稚園から始まり、小、中、高等学校、短期大学から四年制大学、さらに大学院を擁する総合学園として、「和」の精神を建学の理念とし、社会に通用する人間としての能力の育成と、人格の形成、“心”の教育にあたってきた。

学園は戦時中の東京空襲により、建物、教育教材などすべてを失い、焼け野原の中から復興に当たってきた。昭和40年、千葉県松戸の地に聖徳学園短期大学の設置が認可され、高等教育機関としての短期大学が発足し、「家政科」と「保育科」が開設され、「保育の聖徳[®]」を築き上げる基となった。その後、女性の高学歴化が進み、四年制大学への志向が強くなるのに応えて、平成元年12月、聖徳大学人文学部の設立が認可され、児童学科、日本文化学科、英米文化学科が設置された。

これ以降、人文学部は児童学科、社会福祉学科、心理学科、生涯教育文化学科、現代ビジネス学科、外国語学科、英米文化学科、日本文化学科、人間栄養学科、音楽文化学科の10学科へと拡充し、それぞれが発展する社会のニーズに対応する教育を展開してきた。その後、平成20年度には、人文学部児童学科は児童学部、音楽文化学科は音楽学部、さらに平成22年度には、人間栄養学科は人間栄養部に昇格した。これと平行して、平成10年4月には、児童学研究科と言語文化研究科から成る大学院が設置され、幼稚園から大学院までの一貫した教育組織が完成した。児童学部、人文学部社会福祉学科、日本文化学科、英米文化学科には通信教育課程が置かれ、大学院にはその後、臨床心理学研究科、人間栄養学研究科、音楽文化研究科が増設され、今日に至っている。

ii 目的（対象大学から提出された自己評価書から転載）

聖徳太子の「和」の精神を建学の理念として、教育基本法及び学校教育法に則り、学術の中心として、広く知識を授けると共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的・道徳的及び応用的能力を展開させて、円満な人格を具えた社会人・家庭人としてのよき女性の育成を目的とする（学則第1条）

iii 選択的評価事項に係る目的（対象大学から提出された自己評価書から転載）

選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

聖徳大学学則は、その第10節「公開講座」第59条において、「社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開講することができる」と定めている。本学では、これに基づいて大学教育の公開サービス活動を展開している。その中核となっているのが、「聖徳大学オープン・アカデミー」（SOA ソア）である。「聖徳大学オープン・アカデミー規程」第3条には、その事業内容として、（1）公開講座、英会話講座、課外講座、（2）SEITOKU夏季保育大学、各種セミナー等、（3）図書館司書、司書補講習、その他各種検定試験、（4）その他SOA事業に関するものと定められている。SOAは、平成4年4月に開設、平成13年4月には学内規程を整備し、上記の「聖徳大学オープン・アカデミー規程」をはじめ、すでに制定されていた「協力者会議規程」を改正、さらに「外部講師採用基準」、「公開講座修了者に関する取扱要領」を新たに制定した。

SOAの中心事業であるSOA公開講座については、その開講数及び受講者数は、開設時10講座、延べ273名であったが、平成14年の10周年では約70講座、延べ1,000名を越え、平成22年度にまでに通算55期開講し、延べで62,000人以上が受講している。

iv 自己評価の概要（対象大学から提出された自己評価書から転載）

選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

「社会人の教養を高め、文化の向上に資するため」に、各種の教育サービス活動の計画を、前年度の実績を踏まえて立案しており、その詳細は各種のメディアによって周知されている（P）。その教育サービス活動は立案された計画に基づき適切に実施されており（D）、活動の終了後は各種の調査を行い、参加者数、参加者の満足度などからみて活動の成果が十分に上がっていることを確認し、そのうえであらためて計画の履行状況を検証して（C）、その次年度に、日程、講座数、講座内容などにおいて、さらなる改善のための取組を行っている（A）。

v 自己評価書等

対象大学から提出された自己評価書本文については、機構ウェブサイト（評価事業）に掲載しておりますのでご参照下さい。

機構ウェブサイト <http://www.niad.ac.jp/>

自己評価書 http://www.niad.ac.jp/sub_hyouka/ninsyou/hyoukahou201203/daigaku/no6_1_1_jiko_seitoku_d_s201203.pdf